

柏原市議会議員

ムダのない、かしこく活力のある柏原市を作りたい、めざすのはスマートシティ柏原

かしわらりょく

山口ゆか 柏原力UP↑

Vol.10

30年夏号

6月議会&活動報告書

最近の日本社会で、人権を無視した事件が多く、心が痛みます。今まで幸せに暮らしていたのに、ある日突然、児童が連れ去られ、殺害され棄てられた事件がありました。憤りと無念さを感じた人もいたでしょう。幼児が虐待され、放置されて死んでいく事件がありました。メモという形で私たちにメッセージを残し、それを読んで涙した人もいたでしょう。スポーツの世界でも、不正な反則の強要という指導者の圧力があり、選手を追い込み、一人で責任を背負おうとした姿に、心を震わせる人もいたでしょう。

大人によって幼い子供や青少年が犠牲になっている事件が多いように思います。人として生きる権利を奪われたり、自分の思いと違うものを強要されたり、弱い立場のものが巻き込まれる事件に、憤りと虚しさを禁じえません。国や府など市の範囲を超えて、取り組むべきことの方が多く、むしろ柏原市で出来ることは少ないかもしれません。しかし、この町で生き、暮らす人々にとって、寄り添う政策が出来るのは柏原市の行政です。立ち位置を見極め、柏原市が本当にやれることは何か、そのことを念頭において質問しました。

通学時の安全確保策は？

新潟女児殺害事件を受けて、国は素早く対応

- ①国家公安委員長が、子どもを守るという観点から、通学路などの防犯対策を検討する考えを示した。
- ②政府も子どもの登下校時の安全確保に向けた対策強化を検討するため関係閣僚会議を開き、再発防止策を取りまとめる。
- ③警察本部も子どもや女性、高齢者を犯罪から守るために不審者情報を分析し、実態に即した犯罪の防止を強力に推進していく。過去5年間では12歳までの**子どもの連れ去りが毎年100件**ほどあり、被害が最も多い下校途中の路上に重点を置いた犯罪防止策を取りまとめる。

1人のリーダーシップで素早く対応し、縦割り行政に**横串**をしてまとめている点、**速やかに会議を開き意思決定**している点
→本気で子どもの安全を守る強い意気込みが感じられます。



関係機関の協力のもと登下校の見守り、通学路の点検・安全マップの作成、危険箇所等の把握、交通安全教室・路面表示や防犯カメラ事業等、安全対策に取り組んでいる。

登下校の安全対策の強化を図るため、縦割りをなくして関係各課の情報共有の場とする**定期的な合同会議**の開催などについて市長の考え方を伺う。

(柏原市でも素早く対応してほしいという思いから市長に質問しました。)



警察、地域との連携は非常に重要である。今後も子どもたちの安全安心のため更なる情報共有、連携に努めていく。

行政の縦割りをなくし、「**まち全体で子どもを守る**」その一義において、関係機関が話し合うことが重要です。
さらには、**いじめや虐待についても対策を協議できる会議**へと発展させていただくよう切に願います。
市民に近い存在である自治体が、その町の特性、特徴をよく理解しています。実態に即した地域の対応を。

市民のための病院に

病診連携の診療体制と29年度の決算見込みについて問う。



初期の治療は医院や診療所、高度・専門医療は病院、というように医療機能を役割分担し効率的で効果的な医療を提供している。

29年度決算は、収益の方は昨年同程度であるが、人件費が増加し、経常収支は約**2億2600万円マイナス**となり、**昨年より5000万円の落込み**となっている。

収益アップという意味で救急の役割は大きい。今年度の救急の取組を問う。



時間外の内科医の勤務体制を増員し、救急搬送の受け入れ体制を整えている。医師不足による搬送の断りが減らせる。

市民と病院の信頼関係は重要です。かかりつけ医は“柏原病院”と通い続けてくれていた患者さんがいます。市民の身近にあるからこそ、寄り添う病院であってほしいのです。



病診連携体制によって外来患者が減りますが、急性期病院としての役割の一つである**救急体制が充実**することで収益にもつながります。経営も考慮しつつ、市民にとってなくてはならない病院を目指してください。

北朝鮮拉致問題は人の生きる権利を奪う人権問題

国から啓発アニメ「めぐみ」の活用促進について通達がされているが、市としての取組を問う。



人権→法律で地方公共団体の責務として定められている。啓発週間ポスターの掲示と「めぐみ」の上映をフローラルセンターで実施。「拉致被害者救出府民の集い」を広報で周知、職員派遣も実施。

教育→拉致問題担当大臣及び文部科学大臣等より「めぐみ」の活用について依頼があり、教職員が視聴しているところ。今後の活用について学校とともに検討していく。

自分の思想や欲望、もしくは組織やグループの欲求で人の身体や生命を奪うことは絶対にしてはいけない、命を奪う側には決して立ってはいけない、強い立場の者が弱い立場の者を傷つけたりしてはいけない、そのことを**大人の責任**として子どもたちに教えてほしいのです。

人は平等であるという人権教育も大切なのはもちろんのこと、まずは命とは、命の尊さ、**人の生きる権利**を道徳教育において教えてください。人権を無視した事件などが起きないように、拉致問題を人権侵害問題として取り上げ、教育していただきたいのです。



生命を救うために備えを

全戸配布された防災マップや市のWebサイト上のAEDマップに、公共施設のAEDが載っていないのはなぜ?「せめて避難所には設置してほしい」という市民の声を受け、質問しました。



AEDについて届出や設置の法的な根拠がないため、今回の防災マップには把握できている範囲で記載している。厚生労働省や大阪府において、AEDの設置情報を公開しているが、登録については協力の範囲にとどまっているのが現実。

今後は、救命講習の受講者を増やすなど啓発に努めていく。

防災マップや市のWebサイトのAEDマップの情報が不十分では危険を伴う可能性もあります。市の刊行物やオープンデータとして公開している以上、点検や見直しは必要です。大雨などで避難所が開設され、高齢者が多く集まる場所には必ずAEDの設置を。

任意でも設置登録や情報公開の届出の仕組みづくりは?



設置者に対し、管理などの責任が生じてしまうと指摘されており、法律化できないと言われている。
当面は設置や使用の普及啓発に取り組みたい。

民間設置者には任意での登録や情報公開への促進を。

市主催及び市民主体のイベントなどへのAEDの貸出は?



市主催のイベントで必要であると判断した場合は貸し出しており、市の関与していないイベントへの貸出は行っていない。

他市では市民主体のイベントでも貸出しています。緊急の際には当然ながら、**市民の生命救済の観点から、一般貸出も行っていただくよう要望します。**



一方、近隣の姫路市では保育士不足を理由に定員を減らす事態となりました。明石市に保育士が移ったのではないかと分析しているとのことです。

一方、近隣の姫路市では保育士不足を理由に定員を減らす事態となりました。明石市に保育士が移ったのではないかと分析しているとのことです。

一方、近隣の姫路市では保育士不足を理由に定員を減らす事態となりました。明石市に保育士が移ったのではないかと分析しているとのことです。

一方、近隣の姫路市では保育士不足を理由に定員を減らす事態となりました。明石市に保育士が移ったのではないかと分析しているとのことです。

一方、近隣の姫路市では保育士不足を理由に定員を減らす事態となりました。明石市に保育士が移ったのではないかと分析しているとのことです。

一方、近隣の姫路市では保育士不足を理由に定員を減らす事態となりました。明石市に保育士が移ったのではないかと分析しているとのことです。

一方、近隣の姫路市では保育士不足を理由に定員を減らす事態となりました。明石市に保育士が移ったのではないかと分析しているとのことです。

柏原力UPの会で体験会・勉強会を開催

2/12 口ボットプログラミング体験会



2020年から「プログラミング教育」が必修化となります。まずはプログラミングを知つてもらうために体験会を開催することにしました。日本橋にあるダイセン電子工業の田中社長を講師にお招きし、子どもたちはタブレットを使ってロボットを動かすプログラミングを体験しました。プログラム通りにロボットが反応しないときには、頭を使って修正していました。その繰り返しをすることで、最終的にはロボット操作がちゃんと出来るようになっていきました。まさに問題解決能力を体得していました。

全国で始まるプログラミング教育に柏原の子どもたちが出遅れることのないよう、学校の**ICT環境の整備**を積極的に取り組むよう、これからも議会で訴えます。

後援会会員を募集しています ウェブサイト・電話・FAX・メールで随時受付中!
一緒に政策を考える「柏原力UPの会」の会員を募集しています

山口由華後援会

〒582-0005 柏原市法善寺2-3-23
tel. 072-921-7430 fax. 072-926-5077

Webサイト
<http://yamaguchi-yuka.com>
Eメール
info@yamaguchi-yuka.com

保育所に預けられない…

年度当初から待機児童が発生している。待機の出ない保育所運営が必要。状況と対策は?



30年度は昨年より27名多い1358名の入所申込みがあり、**1歳児11名、2歳児1名、(4/1時点)**の待機が出ている。31年度には民間施設で40名の低年齢児の入所枠を新たに確保の見込み。公立認定こども園は工期の延長により開園が延期されるが、園舎が完成次第、4月開園に先行して0、1歳児の受け入れを開始する予定。



ハード面は今後整備されていくが、保育士不足の問題が残る。「潜在保育士」の掘り起こしが必要と考える。市内の大学の協力を得て、リターンセミナーを開催しては?



潜在保育士は全国に**70万人いる**と言われている。大阪府でセミナーなど実施されており、政令市などの大規模都市では実績がある。市独自のセミナーの開催は、効果について今後研究していく。



保育士不足は全国的に深刻な問題です。離職した保育士が復職しやすくするため、短時間労働など働き方を見直し、働きやすい環境を整備してください。



また、幼児教育の無償化をすれば、必然的に保育ニーズが増加し、待機児童がさらに増えると予測されています。国が来年10月から幼児教育の無償化をすることが決まっているため、柏原市が今年10月から開始する5歳児の幼児教育無償化分については、来年度の事業として必要なくなるわけです。それならば、来年度は**待機児童対策の優先度を上げ予算付けを**。待機児童の解消につなげてください。

山口ゆかコラム

↓保育ニーズの増加
↓待機児童の増加
↓近隣市で保育士の奪い合い
↓保育士不足

5/28 家族で今、向き合う家のこと相続のこと

人口構造の変化から、人口減少と共に**住宅や土地が確実に余ってきます**。それは、**空家の利活用やリノベーション**では追いつかないくらいの大きな波が押し寄せてくると私は考えています。

家族で向き合うきっかけになればと考え、空家と相続に関する勉強会を開催しました。

「今考えよう!これからの住まいのあり方~家の老朽化と空家対策」と題して、同級生でハウスメーカー勤務の金山君に講師をお願いし、住宅をどう活用していくか、リフォーム、賃貸、売却、投資など例を挙げてわかりやすく話していただきました。

次に「今から知っていて損はない!~相続に関する基礎知識」について、司法書士の八塚君に講師をお願いし、身近な家族構成を例に相続、遺産分割、遺言など様々なパターンをたくさん紹介していただきました。



参加された方は「今から何かを始めないと」と意識を持たれたようで、有意義な勉強会となりました。

これからも柏原市にとって何が必要なのかを考え、提案していきます